

◎会議要録

1 会議の名称	令和元年度 砺波市子ども・子育て会議（第1回）
2 開催の日時	令和元年5月28日（火） 午後1時30分～3時15分
3 開催の場所	砺波市役所 本館3階 大ホール
4 出席者名	別添会議録のとおり。
5 議題	1 子ども・子育て会議の趣旨説明等 2 協議事項 （1）砺波市子ども・子育て支援事業計画（第2期）について ・砺波市の子育てを取り巻く現状 ・砺波市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果 （2）保育所・認定こども園・幼稚園をとりまく現状と課題について 3 その他 次回の会議開催について
6 公開の明示 及びその理由	公開
7 審議の概要	別添会議録のとおり。
8 会議の主管課 及び問い合わせ先	砺波市教育委員会 こども課 児童家庭係 内線 371

◎令和元年度 砺波市子ども・子育て会議（第1回）会議録

○開催日 令和元年5月28日（火）午後1時30分～3時15分

○会場 砺波市役所 本館3階 大ホール

○委員出席者 小田二委員、金森委員、金平委員、川合委員、小芝委員、齋藤委員、柴田委員、清水委員、白江委員、高池委員、武田委員、中川委員、前田委員、三門明委員、山本郁委員、渡邊千委員、渡邊委員
欠席・・・井上委員、林委員、本多委員

○市側出席者 山本教育長、畑教育委員会事務局長、森田教育委員会事務局次長・教育総務課長、横山こども課長、端谷こども課主幹・児童家庭係長、三部こども課保育幼稚園係長、米島こども課保育幼稚園係主査

1 開会

2 新委員の紹介

3 会議の趣旨について

資料1 に基づいて説明

4 副会長の選出

副会長 井上委員

5 協議事項

(1) 砺波市子ども・子育て支援事業計画（第2期）について

資料2、資料2-1に基づいて説明

会長：砺波市は子ども・子育て支援法に基づいて、第1期の子ども・子育て支援事業計画に沿って様々な子育て支援を行っているが、この計画期間が終わるということで、令和2年度から5年間の計画を策定する必要があるということです。それに先だってニーズ調査を実施され、その中から主なものを抜粋されて報告いただいた。ご質問やご意見はありますか？

委員：商工会議所の立場から、働きながらの子育てする環境整備は大事であると思っている。この施策について具体的なものがあれば教えていただきたい。

事務局：働きながら子育てをするためには、職場での環境整備が必要ということで、職場の理解がなければできないと思っている。職場に働きかけていく施策が必要であると思っているので、今後ご相談させていただきたい。

会長：先進事例など参考にされるといいと思います。

少子化と核家族化は表裏一体であり、祖父母のいない核家族が増えています。社会全体で子育て環境を整えていくことが大事であります。

委員：砺波市では土曜保育はあるが日曜保育がない。調査結果から日曜保育を利用したいと思っている方がいるということがわかる。また、仕方なく子どもだけで留守番させている方がいるという結果が気になる。ファミリーサポートの事業の周知ができていますか。

事務局：砺波市にもファミリー・サポート・センター事業があるが、依頼会員は多いが協力会員が少ないのが実態である。マッチングがしづらい。サポーター研修の機会も設けているが、今後も研修の機会を周知し、サポーターを増やす必要がある。利用料については、1時間600円で、ひとり親家庭の方に対しては助成制度もあるので、金銭的な理由で利用できないことはないと思っているが、制度の周知も今後も必要かと考えている。サポーターとして協力できる方を探しているのご協力願いたい。

委員：放課後児童クラブの立場から、意見を言わせてもらおう。市内で一番規模の大きいクラブの運営に携わっており、今は140名あまり預かっており、毎日お子さんがケガをしないように気を付けることや、アレルギーをもつお子さんなどのおやつにも気を付けている。そのほか人間関係のトラブルも多く、ひとり親家庭も増えており、預かりにくくなっている現状である。

人口減少が、どの市町村も課題としている。砺波市でもいろいろと対策をしておられ、子育て支援の充実はたいへん大事であると思うが、基本的に自分の子どもは自分で育てることが原則ではないかと思っている。子育て支援の充実した有り難い制度もあるが、今後もいろいろな状況が変わっていくなかで、市の方でもそれぞれに対応していただきたい。

会長：親が自身で育児できるように、社会全体で子育て支援をする必要性、職場環境の充実が必要になってきますね。

委員：資料中の「子ども・子育て支援の現状」の「時間外保育」ですが、平成26年度に比べると平成30年度が急激に増えているが理由はなんですか？

事務局：平成27年度から法律が改正されて新制度が始まった。平成26年度までは11時間保育が基本で、時間外保育の利用時間帯が少なかった。平成27年度以降は就労の状況、利用の理由によって保育時間が決まることになり、8時間保育に該当する方ができた。これは全国一律に改正されたものである。現状は、制度として、必要な時間を正しく利用されていると考えている。

委員：アンケート調査の母体の人数を教えてください。

事務局：調査は、市内の未就学児2,412人のうち1,200人と、小学生2,688人から800人、合計2,000人を無作為抽出して、その保護者を対象に行なった。抽出人数は5年前と同様としている。

会長：そのほかご意見ご質問がある場合は、後日、意見・質問書に記入して事務局へ提出いただきたいと思います。この後、事務局の方で第2期の計画の素案づくりを進めていただいて、第2回、第3回の会議でまた協議したいと思います。

(2) 保育所・認定こども園・幼稚園をとりまく現状と課題について

資料3、保育所の適正な保育環境の基準について(案)について説明

会長： 昨年の 11/27 に開催した第 2 回の子ども・子育て会議において、幼稚園だけでなく保育所、認定こども園など全体について、適正な保育環境について考えなければということで、今回、保育環境の判断基準(案)について説明いただいた。この第 1 回目の会議で決めるのではなく、第 2 回、第 3 回の会議でも議論していただいて決定していただきたいと思っています。

委員： 小学校や中学校には特別支援級があるが、保育所や幼稚園にはあるのか。

事務局： 別教室に設置しているわけではなく、皆一緒に活動しているなかで、特別支援の必要なお子さんに対して加配として保育士を配置している。専門機関につなげる必要のあるお子さんについては平行通園もしている現状がある。

委員： 基準の考え方はわかった。ただ、建物の中で耐震基準を満たしていないものもあるのではないかと思うので、そういうところも基準として検討してみてもどうかと思う。

事務局： 鉄筋コンクリート造で耐震性がないのは鷹栖保育所がある。そのほかは木造であり、耐震改修はしていない。

委員： 適正な人数に満たない状態が 3 年間継続すると着手するという期間の根拠は何ですか？

事務局： 3 歳児以上から入園して卒園するまでの期間としている。

委員： 全国的に待機児童を検討するというのがこの会議であったと思う。砺波市では人数について検討されているが、入所者が希望どおり入所できる人数なのか、保育士も確保できているのか、建物の環境がそろっているかどうか、基準(案)の中にこの 3 つが考えられていればよいと思う。この基準(案)は、人数的に理想とする保育ができるかどうか、量的なものが満足されたら、次は質的な保育環境を考えているのかどうか確認したい。

事務局： 砺波市には待機児童はいない。入所にあたっては、第 3 希望まで聞いて、定員の中で地域性などを考慮しながら、入所判定している。量的なことが確保できれば、質の確保、保育士の確保が必要。ただ、一定の規模がないと保育士の確保も難しい。限られた保育士を適切に配置するには、ある程度の集団の規模が大事である。保育士の不足している現状を勘案しながら、子どもの立場から望ましい保育環境の基準として示している。

会長： 意見等がある場合は、後日、意見・質問書に記入して事務局へ提出いただきたいと思います。今回だけで決めるものではなく、第 2 回、第 3 回の会議で保育所の今後のあり方について進めていきたいと思います。今回いただいた意見も参考にしながら、事務局のほうで資料づくりを進めていただきたいと思います。

6 その他

事務局： 次回の会議は、9 月頃に会議を開催したいと考えており、後日、正式に案内する。保育環境の基準については、皆様からの意見をさらにいただきながら、次回の会議で引き続き議論させていただきたいと考えている。

会長： 本日予定しておりました案件については、協議等が終了いたしました。

会長降壇

7 閉会

教育長挨拶

本日は長時間にわたり協議いただき、ありがとうございました。

議題にもありました保育環境を充実させることは、保護者の切なる願いであると感じております。長い時間、幅広い年齢で、手厚いの働きかけを望むということですが、それなりの予算を要します。また、それ以上に保育士の確保が必要となります。

全国的に小中学校にも先生が配置できない事例もでておりますが、この原因は、若い年代層がないということであります。絶対数が小さくなっている中で確保していくことは難しくなっています。全国には先生が手当てできないと閉園に追い込まれている現状もあります。

そういうことで、少ない保育士の配置をどうするか、集約化も避けられない実情があると感じております。

ただ、幼稚園は地域の宝であり、長い歴史もあり、愛着もあるという地域のご意見もありますが、現状をお話し、どのような解決の方法があるのか、時間をかけて進めてまいりたいと思っております。

そのきっかけとなる基準が適切かどうか、また、気を付けなければならないご意見などを今後の子ども・子育て会議でお聞かせいただければ幸いです。

本日は貴重なご意見をありがとうございました。次回も、よろしく願いいたします。